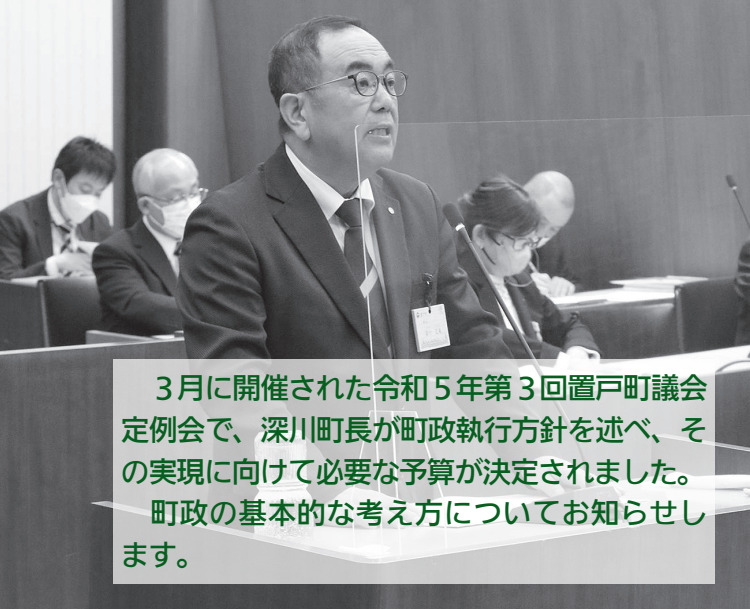




笑顔と夢を
未来につなぐまち

広報おげと
KETO



3月に開催された令和5年第3回置戸町議会議定例会で、深川町長が町政執行方針を述べ、その実現に向けて必要な予算が決定されました。
町政の基本的な考え方についてお知らせします。

令和5年度 町政執行方針 (要旨)

発生から3年が経過した新型コロナウイルス感染症は、この間様々な予防対策が講じられてきましたが、いまだ完全収束へのシナリオは見えておりません。しかしながら、徐々にコロナウイルスと共存する生活様式が浸透するなかで、社会経済活動も再開されてきました。

政府は5月8日より、新型コロナウイルス感染症の位置付けを現在の「2類相当」から「5類」に移行する方針を決定いたしました。これにより、流行前の国民生活や住民活動への回帰が加速されてまいります。本町では引き続き、置戸赤十字病院と連携した感染症予防対策を取りながら、あらゆる場面で日常を取り戻すことができるよう、着実に取り組んでまいります。

近年、地球温暖化による気候変動の影響により想像を絶する自然災害が全国で頻発しております。本町においても、記録的な大雨や降雹などの気象災害による被害が発生し、町民生活に大きな影響をもたらしています。

本町は、面積の約8割を占める広大な森林と町を貫流しオホーツク海へ注ぐ常呂川を有する「緑と清流のまち」であります。将来にわたり、この豊かな自然環境を次世代にしっかりと引き継いでいくため、町民の皆さん、事業者の皆さんとともに

に、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、総合的な政策転換を図ってまいります。

昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻を引き金に世界経済は混乱し、燃料や資材などの価格高騰の影響からあらゆる物価が上がり、今後においても、電気料金をはじめ様々な分野で価格高騰が見込まれるなか、本町も依然として厳しい財政状況ではありますが、令和5年度予算編成にあたっては、国や道の政策や方針を見極めながら、緊急性の高い事業を優先し、取り組むことといたしました。

これまで、新型コロナウイルス感染症は、様々な分野に深刻な影響をもたらしてきました。長期にわたる自粛生活によって、コミュニティ活動も停滞し、人々の価値観や行動様式も変化したなかで、依然として厳しい町政運営が続くであろうと思います。ポストコロナを見据え、固定観念にとらわれずに町職員が一丸となって課題解決に向け、全力で取り組んでまいります。

町民と行政が一体となって、「笑顔と夢を未来につなぐ」町政に、しっかりと取り組んでまいりますので、町議会議員と町民の皆さんの深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

健康で安心に暮らせるまちづくり

○高齢者保健福祉

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画は、第8期の最終年度を迎えます。住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域共生社会の実現に向けて、計画目標を達成できるように努めます。また、第8期計画を評価したうえで、各調査結果の分析

や地域課題を踏まえた第9期計画を策定します。

地域密着型サービスとして運営されている通所介護事業所や認知症対応型共同生活介護施設に対し、運営費の補助や利用者の負担軽減を図り、サービスの利用促進と安定的な運営への支援を継続します。

○地域支援事業

地域包括支援センターを軸として、コロナ禍で停滞していた支え合い活動や集いの場における介護予防活動の推進に努めます。また、複雑な問題を抱える方への相談対応などの支援を行います。



介護予防いきいき運動教室

○認知症施策

認知症の方やその家族に対して、認知症サポーター養成講座による知識の普及や「りんぐ☆おけと」などの事業を通じて支援を行います。

○介護サービス事業

要支援者や要介護者に対する適切な各種サービスが状況に応じて提供されるよう努めます。

○養護老人ホーム・特別養護老人ホーム

社会福祉協議会を指定管理者として管理運営を委託しておりますが、町職員1名の派遣を行い、より一層の運営の効率化を図るとともに利用者に対するサービスの質の向上を図られるよう、引き続き支援します。

施設整備では、養護老人ホームの音響設備の更新と特別養護老人ホームの屋根や浴室の改修を実施します。

将来を見据えた特別養護老人ホームの整備や両施設の運営の在り方などについて、受託者や関係機関と検討を進めます。

○障がい者福祉

心身障がい者の通院や通所、特別支援学校への通学にかかる交通費の助成や、放課後等デイサービス利用者に対しての利用促進事業を継続し、経済的・身体的な負担軽減を図ります。

○少子化対策

不妊治療が保険適用となりましたが、国や北海道の助成制度が廃止され逆に自己負担が増えたことから、経済的負担の軽減と治療機会の確保が図られるよう、治療費の一部を助成します。

従来の伴走型相談支援事業に加えて、出産・子育て応援給付金を支給し、安心して出産や子育てができる環境を整えます。

○子育て支援事業

第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、町全体で子育て家庭を見守り、支えるまちづくりに、政府の子育て政策と連携して取り組みます。

認定こども園こどもセンターどんぐりは、保育料及び副食費の完全無償化を継続し、子育て環境の経済的支援の充実を図ります。

○母子保健事業

妊産婦が専門医療機関に受診するための通院費助成と妊産婦健康診査事業を継続するとともに、産後ケア事業の内容を拡充し、支援の充実を図ります。

簡単に視覚検査ができる「スポットビジョンスクリーナー」を導入し、3歳児健診などでこの機器を使用した検査を実施し、子どもの視力異常の早期発見に努めます。



5歳児健康相談

○健康づくりと保健事業

第2期健康増進計画に基づき、乳幼児から高齢者までの健康づくりと疾病予防対策として各種健診や予防接種、訪問活動などに取り組みます。

子どもインフルエンザ予防接種は、対象者を0歳児まで拡大して実施します。

生活習慣病の予防と疾病の早期発見のため、特定健康診査とがん検診の受診率の向上を図るとともに、生活指導や特定保健指導の強化に一層努めます。

脳ドックとともに受診希望の多いPET-CTがん検診助成事業は、定員を増やし、受診機会の拡充を図ります。

○歯・口腔の健康づくり

歯の健康を保つため、幼児期からのブラッシング指導のほか、虫歯予防に効果的なフッ素・サホライド塗布及びフッ化物洗口と歯周病の早期発見のため歯周病検診を実施します。

○地域医療

置戸赤十字病院に対しては、安心と安全、地域医療充実のための財政支援を継続し、歯科診療所においても引き続き歯科治療の充実を図ります。

にぎわいと活気あふれる産業のまちづくり

○農業・畜産関係

道営事業は、拓実北・南地区で農地中間管理機構関連農地整備事業による区画整理、農道整備は、幸岡雄勝線の道路改修を継続します。

団体営土地改良事業は、農業水路等長寿命化・防災減災事業により、常盤地区営農用水施設の機器改修を実施します。

畜産関係は、引き続ききたみらい第2地区で公社営草地畜産基盤整備事業による草地整備改良を行います。酪農対策として、酪農経営収益力向上支援事業や乳汁妊娠判定を活用した酪農生産性向上支援事業を新たに実施します。

多面的機能支払事業は、農業用資源や農村環境を守りながら持続的な営農を目標として、農地の維持や資源の長寿命化などに努め、農業関連施設の保全に向けて取り組みます。

エゾシカなど野生鳥獣による農林業への大きな被害が年々増加している状況のなか、電気牧柵機器に対する支援を再開するとともに、猟友会の協力を得ながら、有害鳥獣駆除の推進に努めます。

○林業関係

森林環境譲与税を活用した新規担い手の確保や労働環境整備の充実に向けた支援、高性能林業機械などの整備に向けた支援の継続や森林吸収源対策事業による除間伐の促進を図るとともに、新たに被害地造林を追加した私有林整備を推進します。

町有林は、積極的に皆伐や植栽を進めることとし、従来の方針から考え方を転換しながら、計画的な森林整備を推進します。

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に提供した木材を有効活用するため、公共施設などに設置するベンチを製作します。

○商工業関係

元気だすべ事業による起業応援金や各種補助制度を活用した起業の促進と支援を継続し、商店街の活性化に取り組みます。また、産業の垣根を超えた意見交換の場を設置して、事業者に共通する人材不足などの課題解決に向け検討します。

地域で生活を営むうえで、良好な買物環境の維持が不可欠であるため、飲食料品や生活必需品の買物が困難な状況にならないよう、事業者や関係機関と今後の持続的かつ効果的な対策を促進する観点から協議を進め、生活基盤の安定を図ります。

○観光関係

おけと勝山温泉ゆうゆは、本館男湯脱衣所カーペットの張替えとコテージのベッドの更新、一部バリアフリー化改修を実施します。

景勝地である鹿の子沢に訪れる方の安全を確保するため、虹の滝から展望台までの散策路に丸太階段や木柱ロープを設置します。

○オケクラフト関係

オケクラフトが誕生して40周年を迎えるにあたり、様々な記念事業を実施します。

一般社団法人おけと森林文化振興協会への支援を通じて、地域ブランドとしてオケクラフトのさらなる発展に向けた取組を推進します。



森林工芸館内
オケクラフト
展示風景

ふるさとへの愛着と誇りを育むまちづくり

子どもたちがふるさとの歴史と文化に誇りをもち、持続可能な社会の創りに成長するとともに、町民一人ひとりが生涯にわたって学ぶことができる教育環境の構築に教育委員会と連携し、重点的に取り組みます。

小学校及び中学校には、空調設備（エアコン）を設置します。

置戸高等学校では、全国募集が実現したことから、博愛寮に入寮する生徒を対象に帰省旅費の助

成とホストファミリー制度を新設し、支援の強化を図ります。

公民館施設では、アスベスト調査を行った中央公民館床改修工事を実施します。

児童館及び放課後児童クラブは、児童館の開設に向けた検討委員会を引き続き設置し、将来を見据えた子どもたちや保護者のニーズを十分に検討し、基本設計を行います。

快適で安全な暮らしを支えるまちづくり

○防災関係

避難所として使用する拓殖住民センターの停電時電源切替設備工事を実施します。

○消防関係

消防庁舎停電時電源切替設備工事と老朽化した秋田分団詰所のサイレン塔改修工事を実施します。

○ごみ集積所関係

各自治会において、ごみ集積所に設置するごみ箱など、新規に製作又は更新して設置する費用の一部を新たに助成します。

○ゼロカーボンシティ関係

今や世界規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、本町における2050年までの「ゼロカーボンシティ」実現を目指すため、再生可能エネルギー導入戦略を策定します。

本年度の取組として電気自動車2台を導入するほか、引き続き住宅用太陽光発電システム設置費用の一部を助成します。

○道路、橋梁修繕

町道置戸川南境野線の舗装修繕工事を継続します。また、橋梁長寿命化計画に基づき、清流橋及び川東橋の修繕工事を実施します。

○雨水対策

境野地区の頻発する集中豪雨による被害を軽減するため、境野地区全体の雨水対策調査測量を実施します。

○簡易水道事業

秋田浄水場の計装機器設備の更新を継続します。また、国道242号の道路改良事業に伴う水道管移設工事を実施します。

○下水道事業

昨年度に引き続き、今後必要となる置戸浄化センターの機器更新を見据えたストックマネジメント計画の策定とＩＳＤＮ回線のサービス提供が終了することに伴い、光回線に対応したマンホールポンプ遠方監視装置に更新します。

○町営住宅の整備

公営住宅等長寿命化計画に基づき、公進団地5棟10戸の外壁と屋根の大規模改修を実施します。

○空き家対策

町内における適切な管理が行われていない空き家などの実態を把握し、利活用の促進や生活環境の保全を図るため、空き家等対策計画を策定します。また、新たに空き家内にある不要となった家財道具などを処分する費用の一部を助成します。

未来に向けた持続可能なまちづくり

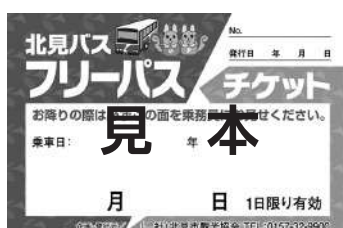
○地域の情報発信

オホーツク総合振興局管内の自治体が一体となって、一年を通じてオホーツクの魅力を道内外に発信するプロモーション事業に参加します。

本町の自然や観光についてもSNSやYouTubeを通じて、より多くの町内外の方に対してのPRに努めます。

○地域交通関係

唯一の公共交通機関である北見バスの利用促進と利用者の負担軽減を図るため、北海道北見バス株式会社が発行する1日バス乗り放題フリーパスチケット購入費用の半額を助成します。



北見バスフリーパス
チケット（見本）

○地域おこし協力隊関係

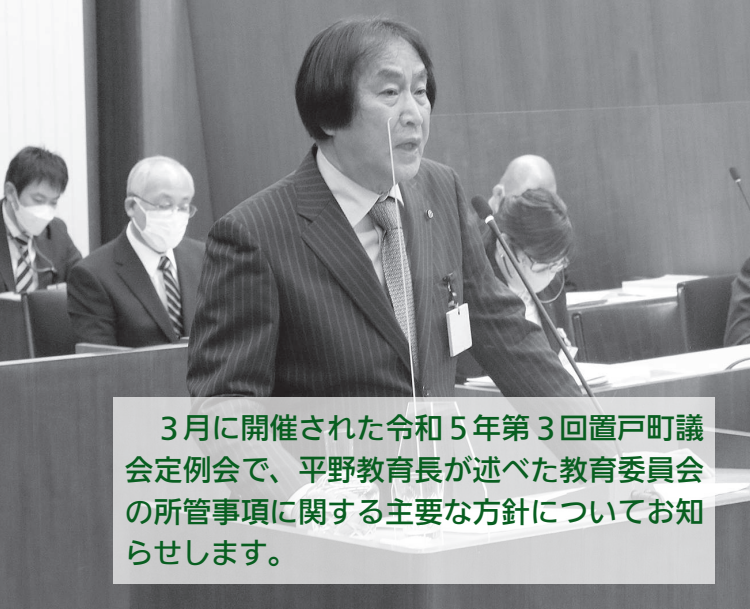
本年4月から大通りにある旧店舗を活動拠点とした、新たな活動がスタートします。引き続き、活動意欲のある隊員の採用を幅広い分野で進め、地域の活性化に取り組みます。



活動拠点施設
となる旧店舗

○町有施設関係

倉庫として利用している旧めぐみ幼稚園は、老朽化が進んでいることから解体撤去が必要であるため、アスベストの含有量調査を実施します。



3月に開催された令和5年第3回置戸町議会定例会で、平野教育長が述べた教育委員会の所管事項に関する主要な方針についてお知らせします。

令和5年度 教育行政方針 (要旨)

学 校 教 育

令和2年度にスタートした小中一貫教育は、目指す子ども像を「9年間をつなぐ教育活動を通して目指す15歳の姿」と一新し、本年度からの2年間で「推進期」と位置付け取組を強化します。

その1年目として、学習部会では、9年間を通じた教育課程の編成や小・中学生の希望者に検定料を免除する英語検定の実施、9年間を見据えて学年ごとに作成した「家庭学習のてびき」による家庭学習の定着、生活部会では、いじめ・不登校の連携した取組や特別支援教育に関する交流を積極的に進めます。

学校運営協議会でも小中一貫教育について議論を重ねるとともに、認定こども園及び置戸高校との連携も視野に入れた協議を進め、地域一体となって「おけとの子ども」を育めるよう取り組みます。

○ふるさと教育

高等学校と自衛隊が合同で実施している1日防災学校に、新たに中学校が加わり、中・高合同の1日防災学校を行います。

○ICT教育

タブレット端末の活用が「日常化」されつつあります。校内・家庭において基本ルールの徹底を図り、トラブルなどの未然防止、早期発見、早期対応を迅速に進めます。

○特別支援教育

一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導や必要な支援を行うために、特別支援教育支援員を小・中学校に引き続き配置します。学校と認定こども園との連携では、教育支援委員会の充実を図り、切れ目のない一貫した支援を行います。

○外国語教育

外国語指導助手2名を小・中学校、認定こども園、置戸高校への派遣を継続し「英語教育」の強化に努めます。

○読書活動の推進

学校巡回司書が小・中学校を巡回し、蔵書の充実を進めるとともに居心地の良い学校図書館創りを推し進めます。また、司書による授業支援を進め、子どもたちの読書意欲の喚起に努めます。

○体力向上対策

新型コロナウイルスの対策を講じながら体育の授業や部活動を継続していきます。部活動の地域移行は中学校・保護者との連携を密に行い、本町に適した移行を進めます。

○就学援助

新入学生児童生徒の学用品費を入学前に支給するなどの援助を継続します。

○教職員の働き方改革

中学校教職員用のPCの更新を行い事務処理の効率化を図ります。小学校学習支援員の授業コマ数を増やしTT（チーム・ティーチング）の充実を図り、担任の負担軽減を目指します。

○学校給食

「ふるさと給食」をパワーアップして継続します。ほとんどの食材が値上がりしておりますが、保護者の負担が軽減できるよう、本年度の値上げは行わないよう努めます。

○置戸高校への支援

全国募集が実現したことから、「帰省旅費」「ホストファミリー制度」を新設し支援の強化を図ります。ダイバーシティコースが新設されたことにより、「福祉の夢サポート奨学金」の給付要件である介護福祉士の資格取得を免除し、3年間の従事先を福祉施設から一般企業へ拡大します。

社会教育

○公民館活動

各地域の生活課題や地域課題に向き合った活動の推進を図り、それぞれの特色を活かした「まちづくり」に向け、実践的に学習できる体制づくりを進めます。

○社会教育関係団体

文化団体やサークル活動の支援と新規加入、設立を促す公民館教室などの実施により、時代に適した活動を活発に行えるよう支援します。

○青少年教育・育成

「ふるさと少年クラブ」や「チャーター事業」、「遺跡発掘体験等授業」など引き続き実施します。



令和4年度
ふるさと教育
チャーター事業

○児童館及び放課後児童クラブ

児童館の開設に向けた検討委員会を引き続き設置しながら、基本設計を行います。

○食のまちづくり推進事業

農業・商業・観光及びオケクラフト分野との連携を図り、役割分担を明確にしながら特産品の開発・商品化に向けた取組を支援します。

食に関する団体、サークルなどとの連携による各種教室や事業について展開するとともに、引き続き地産地消を含めた食育の普及に努めます。

○郷土資料・文化財関係

学芸員を中心に、企画展の開催や郷土資料の保存、整理を専門的に行うとともに、ふるさと教育や研修会、講座などの開催により文化財や郷土の歴史の継承に努めます。

社会体育

ファミリースポーツセンターのトレーニングルームの活用を促進し、スポーツトレーナーを継続して配置します。定期的な健康教室の実施など、幅広い世代にあわせた健康・体力保持及び運動機能回復訓練などが楽しくできるようサポートします。

小学校低学年を対象の「おけとわんぱくクラブ」の開催、少年少女スポーツ教室の開催、スポーツ少年団活動への支援を行います。

パークゴルフの競技人口の拡大を図るため、初心者及び親子、子ども向けの教室の開催、学校の授業に取り入れるなど、学校・関係団体と連携を強め、プレーの楽しさを体感できるような事業の展開を図ります。

図書館

町民の生活や地域の課題解決に役立つ資料の充実を図るとともに、「知の宝庫」である図書館を誰もが気軽に利用できるような働きかけを積極的に行います。

地域おこし協力隊の学校巡回司書や学校教諭と連携を図り、学校図書館支援の充実など、子どもたちの豊かな心を育む読書活動の推進を一層図ります。置戸町立図書館条例の制定70年を記念し、講演会などの催しを実施するとともに、より町民の皆さんが図書に触れるきっかけづくりに努めます。

森林工芸館

オケクラフトは誕生から40周年を迎えます。様々な記念事業を実施するとともに、地域ブランドとしての、オケクラフトのさらなる発展に向けた取組を推進します。

作り手養成塾は、これまでの指導経験を十分に活かしながら、より効率的、効果的な指導を進めます。

「すくすくギフト事業」は、新しく6代目モデルとなります。誕生したお子さんに「元気にすくすく育ってほしい」という願いを込め、オケクラフトの特別セットを贈る事業として引き続き実施します。

「一般社団法人おけと森林文化振興協会」は、設立後9年目を迎えます。インターネットを活用した販売やふるさと納税の主力商品の提供など、流通販売経路の拡大、安定的かつ円滑な材料の供給提供に向けてさらなる連携を図ります。

どま工房は、郷土資料館と連携を図りながら、秋岡コレクションの基礎知識や手仕事文化、オケクラフトの歴史など学習の充実を図るとともに、町民への情報発信にも積極的に取り組みます。

令和5年度 まちのお金の使いみち

本年度の予算の概要と事業についてお知らせします。

笑顔と夢を未来につなぐまちの実現へ

現在、本町の財政状況は、財政の健全化を示す「実質公債費比率（R3決算～6.3）」や「将来負担比率（R3決算～なし）」から判断すると、健全性が維持されていると言えます。

しかしながら、本町において今後一層進むことが予想される人口減少や国際情勢による燃料や物価の高騰などの影響が見通せない状況からも自主財源の確保は、厳しい状況の中で喫緊の課題となっています。

国における令和5年度の地方財政対策では、地方交付税などの一般財源総額が昨年度を上回る額で確保されたことから、本町に対する地方交付税も一定程度の維持が見込まれると判断されるところです。

住民ニーズは多様化し、高齢化、物価の上昇から物件費や扶助費、公共施設の老朽化による維持管理経費などは近年増加傾向にあります。

投資的経費においては、橋梁長寿命化事業や道路の改修、町営住宅改修など町民生活に直結したインフラに対して計画的な改修が必要となっています。

本町の財政事情を認識した上で、長期的な視点による持続可能な財政運営を基本に据え、経常経費の歳出抑制や優先度・緊急度の高い事業の選択と重点化をした上で、歳入の確保に努めた予算編成となりました。

一般会計は46億6,600万円を計上し、前年度当初予算との比較では、1億400万円、2.2%減の予算となりました。

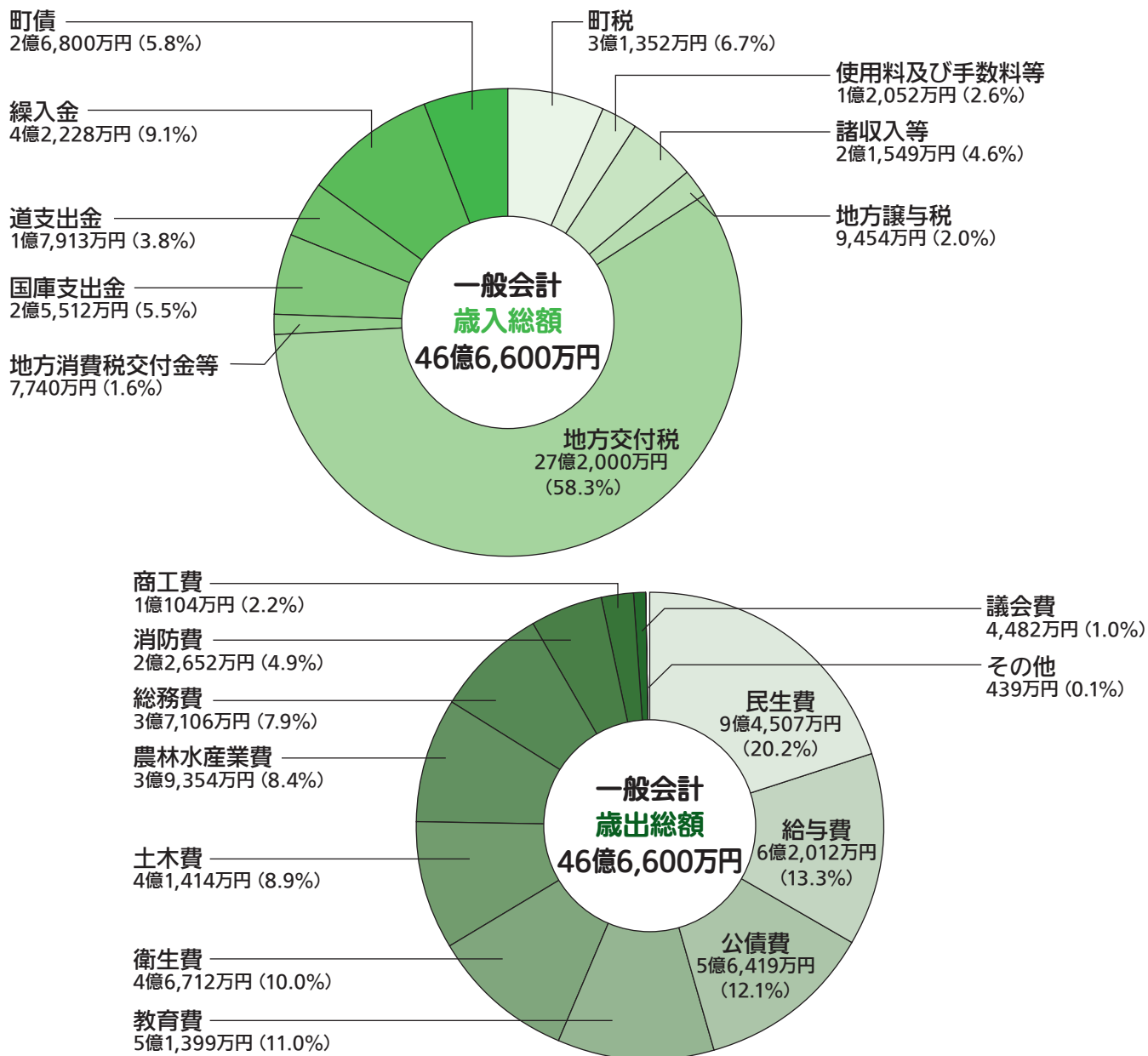
特別会計は、本年度より簡易水道事業及び下水道事業を公営企業会計に移行することにより、それぞれ簡易水道事業会計・下水道事業会計とし、より一層効果的な運営を図ります。

介護サービス事業特別会計では、特別養護老人ホームの業務用洗濯機の更新に332万円を計上しましたが、昨年度に空調設備工事やシステム改修が完了したことから会計全体では、1,080万円、39.6%の減額となっています。

その他の特別会計では、ほぼ前年並みとなり、一般会計と4特別会計を合わせた新年度予算の総額は、前年度当初予算比2.1%減の55億6,330万円となりました。

会計別の予算

会 計 名	令和5年度予算	令和4年度予算	前年度対比
一 般 会 計	46億6,600万円	47億7,000万円	△2.2
国民健康保険特別会計	4億6,320万円	4億6,120万円	0.4
後期高齢者医療特別会計	6,090万円	6,130万円	△0.7
介護保険事業特別会計	3億5,670万円	3億6,160万円	△1.4
介護サービス事業特別会計	1,650万円	2,730万円	△39.6
計	55億6,330万円	56億8,140万円	△2.1
簡易水道事業会計	4億3,207万円	令和5年度から 公営企業会計へ移行	
下水道事業会計	3億718万円		



■歳入のあらまし

町税は、国際情勢による原料・燃料価格の高騰など地域経済への影響は懸念されるものの、固定資産税の伸びを見込み、前年度比2.4%増の3億1,352万円を計上。

地方交付税は、0.9%減の27億2,000万円を計上。うち普通交付税は、前年度予算額とほぼ同水準を見込み、25億500万円を計上。交付税の振替措置である臨時財政対策債との合計では、1.1%減の25億1,640万円を計上。特別交付税は、置戸赤十字病院医療施設充実助成分、地域おこし協力隊員経費分などを見込み、2億1,500万円を計上。

道支出金は、再生可能エネルギー導入戦略策定の財源として新たに500万円を計上。

財産収入は、造林事業の増により素材の売払収入が増額となる見込みから、157.6%増の6,328万円を計上。

寄附金は、「ふるさと納税」を含めて昨年同水準の2,057万円を計上。

繰入金は、財政調整基金より1億8,000万円、減債基金より2億円を繰入し、森林環境譲与税を財源とした未来への森づくり基金事業の増額分を含めて、0.9%増の4億2,228万円を計上。

町債は、過疎対策事業債が2億250万円、緊急防災・減災事業債などその他の起債が5,410万円、臨時財政対策債1,140万円を合わせて2億6,800万円を計上。令和5年度末の町債残高は、現時点で42億9,944万円を見込み。

■歳出の主な事業・経費は次ページへ

令和5年度の主な事業・経費

資源
エネルギー

再生可能エネルギー導入戦略策定

2050年までの「ゼロカーボンシティ」実現を目指すため、再生可能エネルギー導入戦略策定事業に1,000万円を計上したほか、電気自動車2台の導入費795万円を計上しました。また、引き続き、住宅用太陽光発電システム設置費用の一部を助成します。

くらし
応援

空き家対策制度の拡充

町内の空き家などの実態を把握し、利活用の推進や生活環境の保全を図るための空き家等対策計画策定に650万円を計上しました。また、空き家内にある不要となった家財道具などを処分する費用の一部を新たに助成します。

地域
活性化

地域おこし協力隊の任用

4月から大通りにある旧店舗を活動拠点とした新たな活動がスタートします。地域の活性化に取り組むため、幅広い分野での採用を進めるための経費として5,331万円を計上しました。

交通

公共交通機関の利用促進

公共交通機関の利用促進と利用者の負担軽減を図るため、北海道北見バス株式会社が発行する1日バス乗り放題フリーパスチケット購入費用の半額を助成します。

高齢者
福祉

老人ホーム運営の支援

老人ホームに町職員1名の派遣を行い、運営の効率化を図るとともに利用者に対するサービスの質の向上が図られるよう、引き続き支援します。養護老人ホームの暖房自動制御装置や音響設備の更新に278万円を計上しました。

子育て

認定こども園運営の支援

認定こども園こどもセンターどんぐりの運営経費として1億9,588万円を計上し、保育料及び副食費の完全無償化を継続し、子育て環境の経済的支援の充実を図ります。

健康
づくり

保健・医療体制の充実

妊産婦が専門医療機関に受診するための通院費助成と妊産婦健康診査事業を継続するとともに、産後ケア事業の内容を拡充し、支援の充実を図ります。

簡単に視覚検査ができる「スポットビジョンスクリーナー」の導入に150万円を計上し、子どもの視力異常の早期発見に努めます。

子どもインフルエンザ予防接種は対象者を0歳児まで拡大して実施します。

P E T - C Tがん検診助成事業は定員を増やし、受診機会の拡充を図ります。

置戸赤十字病院に対しては、安心と安全、地域医療充実のための財政支援として1億2,600万円を計上しました。歯科診療所においても引き続き歯科治療体制の充実を図ります。

産業
農林業

農業・林業の支援対策推進

農業関係は、道営事業として生産性の高い農業実現のため、基幹農道整備事業に1,634万円、拓実北地区及び南地区の農地整備事業に1,490万円、団体営事業として昨年工事に着手した常盤地区の営農用水施設改修に1,845万円を計上しました。

造林事業は、9,227万円を計上し、下刈りや除間伐など町有林の整備を進めます。森林環境譲与税を財源とした未来への森づくり基金事業も含め、計画的な森林整備を推進し、森林環境保全の維持に努めます。

商 工
観 光

空き店舗の利用、活性化

商工関係は、空き店舗の改装及び既存の店舗改装事業と元気だすべ事業による起業応援金と合わせて商工業の活性化を図ります。

地域で飲食料品や生活必需品の買物が困難な状況にならないよう、事業者や関係機関と協議を進め、生活基盤の安定を図ります。

観光関係は、勝山温泉ゆうゆの運営の安定化支援のため、指定管理委託料1,226万円を計上しました。また、本館男湯脱衣所のカーペット張替及びコテージのベッド更新や一部バリアフリー化改修を実施します。

道路橋梁
住 宅

予防的修繕で安全なまちへ

土木関係は、境野地区の頻発する集中豪雨による被害を軽減するため、境野地区全体の雨水対策調査測量に700万円を計上しました。

道路整備は、町道置戸川南境野線の改修工事に3,000万円、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、愛の澤橋の実施設計に600万円と清流橋及び川東橋修繕工事に4,850万円を計上しました。

町営住宅は、公進団地5棟10戸の外壁と屋根の大規模改修に3,650万円を計上しました。

防 災
消 防

町民の安全・安心の確保

防災関係は、避難所として利用される拓殖住民センターに災害等による停電時の電源確保のための電源切替装置設置工事に230万円を計上しました。

消防関係は、水槽付消防ポンプ自動車の更新に5,280万円、消防庁舎の停電時電源切替設備工事に620万円、秋田分団詰所のサイレン塔改修工事に350万円を計上しました。

学 校
教 育

教育環境の充実

置戸高校は、生徒の全国募集が実現したことから、入寮する生徒を対象とした帰省旅費の助成とホストファミリー制度を新設するなど1,520万円を計上し、支援の強化を図ります。

学校施設は、エアコンの設置工事費として小学校に3,000万円、中学校に3,100万円を計上し、快適な学びの環境整備に努めます。

学校給食は、外部からの食材受け渡し口であるパススルー冷蔵庫を更新します。

社 会
教 育

児童館建設に向けた基本設計

児童館及び放課後児童クラブは、児童館の開設計に向けた検討委員会を引き続き設置し、将来を見据えた子どもたちや保護者のニーズを十分に検討し、基本設計を行うため500万円を計上しました。

公民館関係は、中央公民館の床改修工事に1,800万円を計上しました。

森林工芸館

オケクラフト誕生40周年

オケクラフト誕生40周年を迎えるにあたり、様々な記念事業を実施し、地域ブランドとしてのさらなる発展に向けて取組を推進します。

介 護
サ ー ビ ス

特別養護老人ホーム備品整備

介護サービス事業特別会計では、特別養護老人ホームの業務用洗濯機の更新に332万円を計上しました。

水 道
下 水 道

水道管移設工事

簡易水道事業会計では、秋田浄水場の機械計装設備の更新に1,862万円、国道242号線の道路改良事業に伴う水道管の移設工事に3,000万円を計上しました。

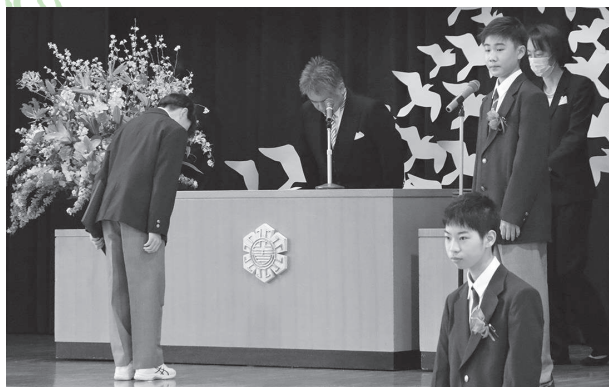
下水道事業会計では、置戸浄化センターの機器更新を見据えたストックマネジメント計画策定業務に840万円、従来のI S D N回線から光回線に対応したマンホールポンプ遠方監視装置への更新工事に2,600万円を計上しました。

■まちの財政計画や予算については、企画財政課財政係までお問い合わせください。
(☎52-3312)

祝 卒 業

置戸小学校・置戸中学校・置戸高校 卒業式

3/20 置戸小学校



3/15 置戸中学校



3/1 置戸高校



第45回町民憲章推進大会・第57回表彰式開催

第45回置戸町民憲章推進大会が、2月19日中央公民館で開催され、町民130名が参加しました。鶴居村を拠点にさまざまな施設や事業を展開している服部佐知子氏が「小さなまちでできること～幸せのおすそわけ～」と題し、講演を行いました。

今回は、講演内容の一部を紹介します。

まずは自らがその地の魅力を知る

企業理念は「幸せのおすそわけ」。自らが住んで実感した、その地の暮らしや食材のよさを多くの人に知ってもらい、そこに暮らす自分たちの幸せをおすそわけしたい、という思いで活動しています。小さなまち、田舎でしかできない、自然の中でのサイクリングなど、都会の人たちからするととても新鮮なもの。まずは自分が楽しむことを大切にし、自らが体験して得た、その地の魅力をどのように発信していくかが大切であります。

2000年からは、WWOOFのホストとして世界中の若者を900人以上受け入れて、2019年には台湾オフィスを開設。現地での交流会では、北海道の良さを伝えるような取り組みも行っています。

また、「お洒落にエコ」というのも、理念の1つです。例えば、布に蜜蝋をかけて作ったエコラップがあります。エコラップは何度も使えて、最後には土にかえる、地球・環境にやさしいものです。できるだけ使い捨てを使用せず、地球に優しい生活にも心がけています。



■服部佐知子氏プロフィール

（株）丘の上のわくわくカンパニー代表取締役、北海道阿寒町生まれ。1999年、鶴居村に「丘の上のオーベルジュハートンツリー」を開業し、2014年「（株）丘の上のわくわくカンパニー」を設立。2019年には台湾オフィスを開設。2000年からはWWOOF（ウーフ＝農業体験と交流のN GO）のホストとしても活躍中。



続く第57回置戸町表彰式では、各分野で町の振興発展に貢献された方に対し、その功績をたたえ、個人21名と1団体が表彰・伝達されました。

まちづくり月記

置戸町長 深川 正美

先月の定例町議会において、総額六十三億円超の令和五年度予算案など全議案を提案どおり可決いただきました。議員の皆さんは、四年任期の最後の定例町議会で七人の方が一般質問に立たれました。議長を除く全議員が質問することは四年振りであり、議会活性化の意味でも大変良いことだと思います。議会の様子はYouTubeで録画配信しております。さて、三年間にわたる新型コロナウイルスの感染対策は、先月からマスク着用は個人の判断が基本となり、五月の連休明けにはインフルエンザと同じ「五類感染症」に移行する方針が決定され、今までの制限が本格的に解除されます。しかし、感染症が根絶するわけではありませんので、引き続き基本的な感染対策のご協力をお願いいたします。

本町では、新年度からゼロカーボンを目指した総合的な取り組みに向け計画策定を行います。地球温暖化が進むなか、頻発化する災害や地球環境の変化、食料不足など直面する課題に対して、無視をしていれれば近い将来必ず人類が住めない地球になってしまいます。小さな町からでも着実に一歩一歩、そして皆さんと知恵を絞って取り組みを始めてまいります。

幸せの花「福寿草」の黄色い花が咲く頃は新たな出会いの時でもあります。新たな期待を胸に、四年目のまちづくりに取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

地域おこし協力隊活動日誌

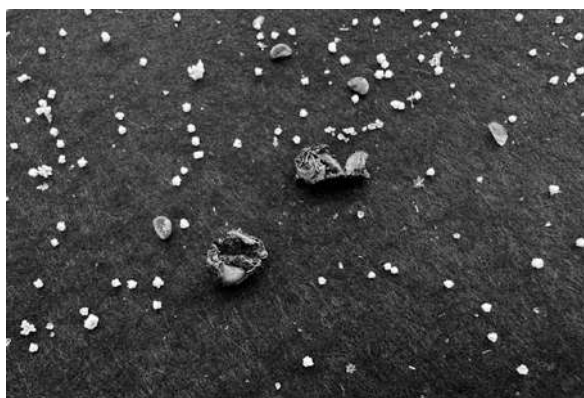
活動報告

地域おこし協力隊員 青木 ゆめの

2023年が始まり、雪がある時期もあったという間に終わってしまいますね！

雪の遊び、スノーシューガイドを置戸で2回行われました。子どもでも大人になっても雪の上を歩くことは、皆さんとても楽しそうで良かったです！

私は2月に沼田町に行き、スノーシューの楽しみ方としてガイドの講習を受けてきましたが、手のひらの上で身近な木の実や種、雪を観察してみて、どんな気温なのか、生き残るための特殊な種の形には理由があったりと、解説を聞きじっくり森を見ることはとてもおもしろかったです。



普段は自然の景色を広く見っていますが、時には上を見たり、虫眼鏡を使ったり、目を閉じて耳で音を聴いてみたりと、置戸の自然をぜひ皆さんにも改めて五感をフル活用して感じてもらいたいです！

木のまち置戸。私は木がとても好きで、町民の方と一緒に鹿の子沢を歩いてもらい、「この木が何の木か？」と1つずつ聞いて歩きました！今年は、町の中に生えている木や植物をもっと知り、置戸でのアクティビティのプラスになればと思っています。

これからもどうぞよろしくお願いします。



喜びと悲しみ(敬称略)

■ご結婚おめでとうございます

○姥谷 謙太・大下 真由 本町 2/24

■お悔やみ申し上げます

○上石 秋生 93歳 勝山新生 1/27

○宮嶋 英夫 88歳 秋田 2/13

○宮崎 壽子 77歳 若木 2/13

○澤目 数子 88歳 西町 2/16

○河野 直枝 93歳 境野中央 2/17

○樋渡 千代子 102歳 緑清園 2/18

○紀國 弘 85歳 栄第一 2/25

人の動き

●世帯数 1,381世帯(－5世帯)

●人 □ 2,660人(－9人)

●男1,229人(－3人) 女1,431人(－6人)

令和5年2月28日現在()内は1月末比

置戸の情報をインターネットでチェック！



人と、木と、おけと



ホームページ



YouTube

■今月号の表紙：3月15日、置戸中学校卒業証書授与式